

令和6年度第3回青谷地域振興会議議事概要

日時：令和6年7月16日（火）午後1時30分～3時10分

会場：青谷町総合支所第2・3会議室

【出席委員】

長谷川和郎、浜江和恵、松下達夫、久野浩太郎、前田幸一、大石剛史、大谷 茜

【事務局】

佐々木支所長、田中副支所長兼地域振興課長（併教育委員会事務局青谷町分室長）、高野産業建設課長、金崎市民福祉課長、山田地域振興課長補佐

【日程】

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 議題

【報告事項】

- (1) 青谷かみじちおもてなしプロジェクトアンケート調査結果について（資料1）
- (2) 鳥取市西商工会の青谷地域における現状について（資料2）

【協議事項】

- (1) 鳥取市新市域振興ビジョン推進計画進捗状況について（資料3）
- (2) 青谷町版総合戦略（第2期）進捗状況について（資料4）
- (3) 地域振興未来プランの策定について（資料5、6）

- 4 その他
- 5 閉会

≪議事概要≫

<報告事項>

- (1) 青谷かみじちおもてなしプロジェクトアンケート調査結果について
事務局より説明

【委員】思ったより誘客に繋がっていることが分かった。集計期間はどれぐらいのスパンで見れば良いのか。

【事務局】基本的には去年から今年オープンして6月ぐらいまでの期間として挙げておりますが、アンケート集計を事前にお願ひしていなかった為このような報告の形となっております

ります。来年はオープン後のより詳細な実績状況が把握できるものと考えています。

(2) 鳥取市西商工会の青谷地域における現状について

事務局より説明

質疑なし。前田委員より補足。

【前田委員】ようこそ夏まつりについて、今年は時期がだいぶ違って皆さん心配されているが、開催時期を秋に変更した理由は、昨今の夏の猛暑でやる方も来られる方も大変であり、加えて花火を計画している場所が水田を想定しており、10月頃の農繁期を過ぎないと難しいため。

<協議事項>

(1) 鳥取市新市域振興ビジョン推進計画進捗状況について

(2) 青谷町版総合戦略（第2期）進捗状況について

一括して事務局より説明

【委員】ID26番14ページの青谷健康ポイントカードというものはどういうものか。

【事務局】健康ポイントカードは、健康事業、例えばウォーキングや健康診断などに積極的に参加するなど、健康に関するようなイベントに参加することによってポイントが付き、そのポイントで商品券とか地域通貨に交換できるなど、そういった計画でした。県内他自治体の事例を収集したり、全庁的な取り組みが求められるため本庁とも情報交換を行ったりしましたが、支所単独として実施するには人員的にも財政的にも難しいという判断に至り、昨年度当初の進捗報告の際計画変更を説明しています。それに代わるものとして何かないかと考えた時に「ウォーキング立県19のまちを歩こう事業」というものがあり、県のポイント事業になりますが、例えばこばしまウォーキングでこの度作成したコースを使ってもらい、この県事業に登録することで県のポイント制度を活用するといったことを考えています。

【委員】湯梨浜町のお客さんが万歩計を付けていて、なんですかそれ？と聞いたら、湯梨浜町では万歩計で何万歩歩いたら商品がもらえる制度があり、青谷もあるのかと。あと広島もそういうのをやっていて、カラオケでも健康麻雀でも資源回収でも何でも参加することでスタンプを貯めてお金になるという事で、だから運動できる人だけじゃなくて、何でも高齢者が地域のことに参加したら、いいものがもらえる制度ができたらいと思う。

【委員】青谷のPRの取組を色々されているが、青谷かみじち史跡公園に大型バスで県外から来るような時に、史跡公園と情報を共有して、駐車場に小さいテントでも出して青谷の物産を何でも並べれば、売れると思う。例えばくず梨でもいい、そういうPRをしましょう。

大型バスが来る日だけでなく、土日でも利用して、賑わいを呼び込んだらと思う。一番最初の説明のアンケートの件でも、こういうパンフレットはすぐに来た人にみんな渡して入館者にぜひこういうものがありますよという案内をちゃんとして、そういうことで賑わいを創れるよう実施して欲しい。もう一点は、健康ウォークでも何でも、全て参加したらポイントを与えて、ポイント集まったら何かもらえる等、実際やってみましょう。

【事務局】一つ目の店舗を駐車場等というお話ですが、これについてはおもてなしプロジェクトで協議していきたいと考えております。また、周遊マップやグルメチラシを施設及び道の駅の方に配架しており、観光客へ案内しているところです。三つ目の高齢者の生きがいづくりについては、今後の地域振興未来プランの策定で検討できればと考えております。

(3) 地域振興未来プランの策定について

事務局より説明

グループ討議により課題の抽出と整理を行った結果を報告

【グループ A】 地域課題が大きく分けて3つ。

①人口がどんどん減っている

→産業が成り立たない、地域リーダーとなれるような人の育成ができていない
人と人の交流が少ない、駅・商店・JRの活気がない、後継者不足

②町内の魅力が少ない

→地域資源が育たない。美しい自然の魅力等活かせていない

③高齢化がどんどん進んでいる

→共助交通や防災力の向上がなかなか進まない

①への対策

- ・人口減少に対しては、それぞれの地域の繋がりを今以上に強化する
- ・青谷高校の留学生の受け入れを強化する

②への対策

- ・魅力に関しては、青谷が得意とする地元の製品の栽培方法の作り込み・向上を指導する。量や品質を高める。新規の生産者への支援を行う
- ・資源を発掘したり、それを活用するような仕組み
- ・鳴り砂とサーフィンのコラボレーション。青谷高校もサーフィンをしている
- ・原木シイタケのブランド化

今出来ることをしっかり取り組むとともに、町民から提言してもらうことも必要

【委員】地域資源を生かそうという考え方はとても大事だと思うのが、これまで実際には生かされていない状況がずっと長年続いており、どのようにしたら生かせるか、ということをこれから考えていく必要がある。

人口減少というのは、これを憂えていく久しく、しかし増える要素が見当たらないので、少ないなりに出来ることを考える。できそうなことを書いてあるが、さらに一步踏み出して、それが大きな動きに繋げることを考えないといけないと思う。

最後にかみじち史跡公園がオープンし、史跡公園自体は頑張っているが、史跡公園が地域を活性化させるわけでは無いので、私達が公園を活用することによって動かそうとしないとなら活性化に繋がらない。史跡公園に青谷がどういうふうに関わっていくか考えることが大事だと思う。

【グループ B】

①人口減少、担い手不足になっている

→子供の数も少なく、PTA で資源回収をまとめるのが大変

- ・役割を進んで引き受けない、イベント等が盛り上がりにくい
- ・労働人口も不足している。
- ・いい文化があったけど活気が減っている
- ・古き良きものが消えていく（灯籠流し、土曜夜市）。
- ・まち協・公民館を一本化（人不足なので役がありすぎると回らなくなっている）

②地域の魅力の減少。

- ・青谷は良いっていう人が少ないなっていう。
- ・青谷は五つの地区の意識差が大きく、土地柄が違うのを肌で感じる
- ・高齢者を大切にしているという実感がない。反対に割と大事にしている地域だと感じるという意見も（お母さんが弁当作り、高齢者の人の弁当を配達ボランティアに出ていたり、地域の人も割と声を掛け合ってるように見える）
- ・遊具のある公園が欲しい

③施設が有効に使われていない。

- ・史跡公園について、建てたらゴールみたいなどころを感じる。その先はやっぱり地域の人で考えていかないといけない。
- ・商工会館・ようこそ館も上手に活用して観光の拠点や、地元の人をもっと関わられるような場所にする。
- ・使えそうな施設がうまく使えてないというのが課題

【委員】様々意見があり、意見もその人の視点によっても変わってくる事なので、結局簡単に結論はつかない。

昔と比べて人と人の繋がりが薄くなってるように感じられる。灯籠流しとか土曜夜市とか青谷町に限らず人と人との繋がりが結構薄くなってきて、そこから分断というか、そういうふうな感じに繋がりが、結局は自分さえ良ければいいという感じの地域になっており、昔の日本の地域を大切にしたり家族を大切にしたいという姿が薄くなってきて今の問題に繋がってるのではないかと感じた。

グループ討議で出た課題意見を集約し、次回会議で対策等について再び討議予定。

<その他>

- (1) 支所公式インスタグラムについて
事務局より説明。質疑なし

以上。